

後藤 友明・高橋 憲明(岩手県水産技術センター)

Tomoaki Goto and Noriaki Takahashi (Iwate Fisheries Technology Center)

近年, CITES でウバザメ, シンベエザメおよびホホジロザメが付属書 2 に掲載されたほか, 数種のサメ類が IUCN によりレッドリストに掲載されるなど, サメ類資源への関心が高まっている。一方で, これらの種の大部分は資源・生態的に未解明なままとされており, 資源の持続的利用を達成させるためには, 前途多難な道のりではあるが, 科学的な知見を地道に集積することが必要である。特に, 沿岸域では, サメ類は混獲主体なため, 一部の産業的有用種以外の漁獲データは「その他」などとして扱われているケースがほとんどである。岩手県水産技術センターでは, TAC システムを利用し, 県内全魚市場からオンラインを経由した水揚げデータの集計を 1996 年から始めている。そこで, 本報は, このシステムで集計したデータを用い, 岩手県の沿岸域で漁獲されるサメ類組成と漁獲動向を整理した。

【結果】本システムでは 7 種と 3 グループ(メジロザメ類, シュモクザメ類, オナガザメ類は複数種混在と考えられる)の水揚げ量を抽出することができた。しかし, 全漁獲量の約 1/3 は「その他サメ類」として扱われており, 種を特定することができなかった。そこで, 種の特定できるサメ類の漁獲動向を調べた。

1 ネズミザメ *Lamna ditropis*

岩手県で最も漁獲量の多いサメ類で, 1996 年以降年間 17~69 トンが水揚げされている。岩手県の沿岸域を代表するサメ類の 1 種で, 定置網, 延縄, 底曳網での漁獲が中心であるが, 年により漁法組成が大きく異なっており, 近年定置網による漁獲が増加している。漁期は 4~6 月で, 定置網以外の漁法では 11~2 月にもピークのみられる年がある。

2 ヨシキリザメ *Prionace glauca*

岩手県沿岸では, 主に定置網と延縄によって年間 163kg~2 トンが水揚げされているにすぎない。漁期は 5~7 月で, 主に若齢個体が漁獲されている。

3 アブラツノザメ *Squalus acanthias*

岩手県沿岸ではネズミザメに次いで漁獲量の多いサメ類である。主に底曳網で漁獲され, 1996 年以降年間

12~70 トンが水揚げされている。水揚げ量は 1997 年と 2000 年にピークとなったが, それ以降大きく減少し, 2003 年には 1996 年以降最低水準となっている。漁期は 12~6 月であるが, ピークは 1~2 月である。

4 ホシザメ *Mustelus manazo*

岩手県沿岸では主に県北部で刺網や立て縄により漁獲されている。1996 年以降年間 220kg~1.4 トンが水揚げされ, 漁期は 12 月頃と 5 月頃である。水揚げ量は 2000~2002 年にかけて増加傾向にあり, この間は 1 月の漁獲増加がみられた。

5 ホホジロザメ *Carcharodon carcharias*

岩手県沿岸では定置網で偶発的に漁獲され, 水揚げデータが残っているのは大船渡魚市場のみである。本市場では 1996 年以降, 合計 11 個体が水揚げされている。水揚げ物は 50~1700kg(推定全長 1.8~5m 程度:Compagno, 1984)と, 様々であった。漁獲のピークは 12~7 月頃で, 12~4 月に 1 トンを上回る大型個体がみられた。漁獲された時の表面水温を比較すると, 本種の漁獲は 7~14°C の水温帯が主体で, 大型個体は 10°C 以下のみの水温域で漁獲されていた。

6 アオザメ *Isurus oxyrinchus*

岩手県沿岸では主に県南部の定置網で漁獲され, 1996 年以降年間 217~1255kg が水揚げされている。漁期は 6~8 月で, 漁獲物の多くは体重 100kg 以下の若齢個体であった。

7 ウバザメ *Cetorhinus maximus*

岩手県沿岸ではホホジロザメ同様偶発的に定置網で漁獲されている。水揚げデータが残っているのは, 1996 年以降 5 回のみである。漁獲期は 5~9 月で, 1997~1998 年に集中していた。ただし, 本種は大型で, 産業的な位置づけが低く, 水揚げされない個体が多いと思われることから, 実態の解明が待たれる。

8 その他

岩手県沿岸では 1996 年以降シュモクザメ類, メジロザメ類およびオナガザメ類の水揚げ記録があるものの, いずれも夏季に偶発的な漁獲がある程度であった。